



より良い関係にしよう

代表取締役社長
安永 暁俊

世界中でコロナウイルスが猛威を振るっています。先が見通せない状況が続きますが、人類が打ち勝つ日は必ず来ます。私たち一人ひとりが知恵をふり絞り、ともに戦いましょう！

いよいよ新年度が始まりました。今年は10名の新入社員を仲間として迎え入れ、誠にうれしく思っています。新しい仲間とともに、今年度の目標達成に向けて一歩ずつ進みましょう。

部署と部署との関係、人と人との関係

前号で述べた「品質第一への意識改革」について、様々な反響をいただきました。ありがとうございます。現在、各事業体で品質第一への取り組みを始めています。今回は、少し別の角度から考えてみました。

この品質問題は、部署と部署とのつながり目

写真を見て、皆さんどう考えましたか？「たいていして違わないかな」「おなか減ってきたな」「ミカンの方が好き！」「ミカンは皮をむかないとね」「リングの方が色鮮やか！」「一日一個のリングで医者いらずっていうよな？」「風邪の予防にはミカンだな」等々。

このように、同じものを見ていたとしても、一人ひとり考えることは様々です。我々はそれだけ主観的に考えて感情的になつていたりともいえます。だから、自分の考えというのも、自分の立場から発せられる個人的なものであるとの認識を持った方が良いでしょう。

一人ひとりが勝手に感じたこと思ったことをそのままぶつけると、リングとミカンのどちらが好きかで揉めてしまう、または、自分はおなかが減つたのに、リングが身体によいと別の観点で主張する相手と気が合わない、そんなことがよく起こります。

同じ物を見ても、このように多様に反応してしまう人々の集合体が会社なのです。毎日会社で顔を合わせ、同じ釜の飯を食べたというような、仲間意識を持つことは良いことですが、元々は皆違う感覚の持ち主だという当たり前のことを忘れてはいけません。それを踏まえると、自分の意見だけが正しいと思うことや、他人の意見が間違いだと思うことに違和感を感じられるはずですよ。

自分の行動を変える

ここで考えてほしいのは、人との関係は「自分の行動」「自分の感情」「相手の行動」「相手の感情」の四つの要因から成り立っていることです。このなかで、唯一、意識的に変えられるのは、「自分の行動」です。実は「感情」より「行動」を優先させると、

こりました。部署間の伝達が十分でなかった反省から、隣や周りの部署ともっとコミュニケーションを増やしてほしいと考えています。部署同士のコミュニケーションという難しく考えがちですが、皆さん一人ひとりが隣の部署の方や周りの方と、日頃から意思疎通を図るということですよ。

周りとのコミュニケーションを取ろう

周りとのコミュニケーションを取るには、少し面倒ですよ。休憩時間でスマホ等が手元があれば、ついつい興味のあることを調べたりして時間が経ってしまいます。そうなりがちですが、たまには誰かと話すことも気分転換になります。いわゆる雑談をすることで、初めて知るようなことも出てきます。少しずつコミュニケーションしていけば、隣や周りの部署にも興味を持てるようになります。

この社内報は色んな立場の方に読んでもらっています。例えば、新入社員や経験の浅い方ですと、自分の仕事を覚えるので精一杯の方も多いと思います。中堅社員の方ですと、仕事に少し余裕が出てきて自分の仕事だけ完遂させればよいと割り切つて考える方もいると思います。ベテランの方ですと、自分の仕事を極めたいと職人的に考える方もいると思います。そうなるについつい自分の業務範囲だけを見がちになってしまいます。

前号で述べたように、自分の責任を果たした上で周りへの声掛けも仕事には求められます。そのためには、日頃から周りとの関係を良好にしておく必要があります。周りとの良い関係ができていけば、困った時に相談したり頼み事をしたりできます。部署と部署との関係は、人と人との関係にも似ていると言えます。周りとのより良い関係を持つ

うまくいきます。

ここでの「行動」とは、リングとミカンを見比べて違いを見つけないという、そもそもの課題に対する行動のことです。まずは、自分と相手を感じていることをすり合わせる必要があります。違いを見つけないためには、自分の好き・嫌いや興味がある・ないという「感情」や「主観」を前面に押し出しすぎたはいけません。そうすることで、リングとミカンの違いについて、何が「事実」であるか客観的に話し合う行動をとることができます。

リングとミカンで、皮の厚さが違ったり、色が違ったり、成分や効能が違うのは「事実」となります。この事実を焦点を当てて話しあうという「行動」を優先させれば、意見の相違や不必要な摩擦が減るはずですよ。

行動が気づかいつながる

この「感情」より「行動」を優先させるということが、「気づかい」にもつながります。仕事や人との関係が上手くいくためのポイントとしてほんのちよつとした気づかひがあります。気づかひとは、相手がしてほしいと思う気持ちをサツとくみ取り、さりげない行動で示すことです。つまり、相手の「気持ちをおもんばかる力」のことです。この目に見えない「気づかひの力」が皆さんの仕事でに絶大な影響を及ぼします。

例えば、苦手な相手に対して、「感情」をすぐに変えることはできませんが、「自分の行動」なら、今すぐにも変えられます。「感情」は複雑なものです。つまり「行動」は単純なものです。

「自分の行動」は変えないで、「相手の行動」「相手の感情」を変えようとしがちですが、相手の余計な反発を買つたりして、うまくいきま

ればワンチームとして取り組みます。

人との関係で悩むとき

周りとのコミュニケーションをとる時に、意外と多くの方が悩むのが人との関係でもあります。相手との関わりの中で、なかなか自分の思い通りにならないことで悩みが出てきます。「あの人の言っていることはよく分からない」「どうして私の言っていることを理解してくれないのか？」等々。自分だけの問題に収まらないので、悩みが深くなりがちです。

職場では色々な人が集まって、様々な考えがありながらも、チームで協力しあって仕事を進めることが求められます。協力し合つて仕事をする際には不要な摩擦を生むことがあります。それが積もつてストレスに感じることがあります。なぜ他人との意見の相違や摩擦が起こるのでしょか？

「あの人は強情だから」「自分は正しいのに誰も聞いてくれない」「上司が昨日言っていたことと反対のことを言っている」等々。

本当にそうでしょうか？あなたが思った「あの人は間違っている」という気持ちに、一度疑問を投げかけてほしいのです。

今から課題を出しますので、少し考えてみてください。問・リングとミカンの写真を見比べて、その違いを探してみましょう。



せん。「自分の行動」を変えれば、人との関係はほぼうまくいくと言えます。

だからまず「自分の行動」を変えること。「自分の行動」を変えると、「相手の行動」さらにはお互いの「感情」も自然と変わってきます。

例えば、これまで挨拶もしなかった人に、毎日「おはよう」と言う。お世話になった人に、好き嫌いは別として「ありがとう」と常に言う。困った様子の人を見たら、自分に関係あるか別にして「どうかした？」と声を掛ける。これらも立派な気づかひです。意外と実践できていない人が多いと思います。まずは、役員・部長がお手本として行動で示してください。

より良い関係にしよう

安永は田舎に本社があり、人と人との関係が身近であるという特長があります。これがうまく機能することが多い反面、人との関係で悩むこともあります。

仕事をする上で、ただ単に皆と仲良くすればうまくいくかというと、そんな単純な話ではありません。仕事がかうまくいく様な、人との関係を築くべきです。

そのためには、自分の「感情」より「行動」を優先させてみる。それが、相手への「気づかひ」にもなります。つまり、人との関係をより良くしていく潤滑油になるのです。

厳しい試練が続きますが、安永は大きな目標である「より良い製品づくり」を目指して進んでいきます。「より良い製品」をつくるチームには、「より良い関係」が必要となるのです。

参考文献 できる人の「気づかひ」の伝え方 鶴野充茂著